

いもち病防除のポイント

(令和3年度 作物栽培管理情報 号外) 令和3年8月発行
大分県中部振興局 集落営農・水田畑地化班

1) いもち病が多く見られる令和3年産水稻 ~多発しやすかった天候~

令和3年産水稻は、田植が始まった6月から7月までの約2か月間、水稻がいもち病（葉いもち）に感染しやすい天候でした。

いもち病は平均気温が低め（15℃～25℃）で湿度が高いと水稻に感染しやすくなります。用水が冷たい、霧が湧きやすい場所にある圃場や、葉色の濃い圃場で葉いもちの発生が見られます。

2) 放っておけない、いもち病 ~収穫まで悪影響が続きます~



葉いもちに感染した水稻

防除が不十分なまま出穂すると



穂いもちとなり減収・品質低下の原因に

3) 適切な防除 ~葉いもちが見られる圃場では確実にいきましょう!~

無人ヘリ防除の有無に関わらず、葉いもちが発生した圃場では穂いもちに備えた追加防除が必要です。

(参考) いもち病（穂いもち）防除に用いる薬剤

剤型	薬剤名	散布時の注意		収穫前制限	使用回数
		使用量/10a・希釈倍率	散布量/10a		
水和剤	トライフロアブル	1000倍	60~150L	収穫14日前まで	2回以内
	ブラシンフロアブル			収穫7日前まで	
粒剤	ゴウケツ粒剤	3~4kg	-	出穂5日前まで、	1回のみ
	ゴウケツパック	小包装10個(450g)		但し収穫30日前まで	

※①粒剤を散布する場合は3cm以上湛水し、散布後7日間は落水・掛け流ししない。

②特別栽培の場合は、成分数の少ないトライまたはゴウケツを推奨

ポイント

- ・農薬使用上の注意を確認し、発生程度に応じ適切に散布しましょう。
- ・防除薬剤の購入は、もよりのJAにお問合せください。

お問い合わせ先：電話097-506-5791

ホームページ：http://www.pref.oita.jp/soshiki/11604/saibaikanrizyouhou.html